

Special Need Education Research Center

SNERC通信

(第14号-2009年12月)

国立大学法人 筑波大学
特別支援教育研究センター
センター長：藤原 義博
〒112-0012 東京都文京区大塚 3-29-1
TEL&FAX：03-3942-6923
<http://www.human.tsukuba.ac.jp/snerc/>
mail：snerc@human.tsukuba.ac.jp

■ 第10回筑波大学特別支援教育研究センター主催セミナー報告

「特別支援教育の発進」シリーズの4回目となる今回のセミナーは、「特別支援学校の担うべき役割を中心に」をサブタイトルとし、今後の特別支援教育の内容と質を支える理論と実践の共有化を図ることを目的として12月6日（日）に開催しました。特別支援教育の在り方に関する調査研究協力者を務めた齋藤 佐和氏による特別支援教育の理念からみた現状と課題についての講演、附属聴覚・大塚・久里浜特別支援学校における教育実践報告を行いました。

学内外から約100名の方に参加いただいたのですが、北は青森、南は沖縄からといったように、お忙しい中を遠方からお越しいただけましたこと、心よりお礼申し上げます。



齋藤 佐和先生の講演



参加者からの質問に応える実践報告者

■ 筑波大学障害科学系研究交流セミナー開催のお知らせ

◆ 主催（共催）

筑波大学障害科学系、筑波大学特別支援教育研究センター

◆ 日時

平成22年1月6日（水） 14:30～17:00

◆ 場所

筑波大学東京地区大塚キャンパス G501 室

◆ テーマ

筑波大学が取り組むべき特別支援教育の課題

◆ プログラム

◇ 講演

特別支援教育の現状と課題 ～筑波大学障害科学に期待すること～

（文部科学省大臣官房政策評価審議官 辰野 裕一 氏）

◇ 話題提供

大学に期待すること （附属久里浜特別支援学校長 西川 公司 氏）

附属学校に期待すること （障害科学系長 河内 清彦 氏）

*セミナー閉会后、懇親会を予定中です。 多くの皆様の参加をお待ちしております。



■ 平成21年度 免許法認定公開講座（報告）

7月27日から8月7日までの12日間、筑波大学東京キャンパスにて開講した免許法認定公開講座、全10講座が無事終了いたしました。今年度も講師や補助員として障害科学系および附属特別支援学校の先生方には、多大なご協力をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

今年度も特別支援学校免許状取得のための単位修得を希望される先生方からのニーズが高く、北海道から沖縄まで全国より1000名近い受講申し込みがありました。本センター事業の大きな柱の一つである現職教員研修機能として、当講座が特別支援教育を支える一人ひとりの教師としての専門性向上へ貢献できればと思っております。



平成22年度の免許法認定公開講座は東京キャンパス校舎改修に伴う会場等の都合で今年度まで附属校の先生方にご協力いただき、参加者から好評を得てきました「障害の理解」「障害の指導法」の講座は休講することとしました。年度の免許法公開講座は「特別支援教育の基礎理論」「障害児の心理・生理・病理・教育課程・指導法論」の2講座で行う予定です。

■ 特別支援教育研究センター 平成22年度 一時移転について

特別支援教育研究センターは附属学校教育局、教育研究科（特別支援教育専攻）等とともに文京区立第5中学校跡地に一時移転します。文京区立第5中学校は統廃合のため現在は廃校になっていますが、その3、4階の教室に特別支援教育センターが移転します。特別支援教育研究センターが移転する教室は明るく、東京キャンパスの教諭室より多少ですが広いようです。

第5中学校は有楽町線楽町線の江戸川橋から徒歩5分程度のところにあります。引っ越しは3月上旬から順次行っていく予定です。なお、特別支援教育研究センターは平成23年度4月から現在の大塚キャンパスに戻ってくる予定です。

広い廊下



明るい教室



■ 現職教員研修生の「研修日記」

センターでの演習風景



今年度の現職教員研修生は各附属での実習、特別支援教育専攻の講義、特別支援教育センターでの演習を通じて研修を深めてきました。11月8日には中間発表会が行われました。今回は聴覚特別支援学校で実習行っている鈴木先生と桐が丘特別支援学校で実習を行っている佐々木先生から「現職研修生日記」に投稿していただきました。

研修テーマ「豊かな話し言葉を育むための支援について」 — 5歳児の話し合い活動を通して —

長年の夢の筑波大学特別支援教育センターでの長期研修。現実のものとなり、期待に胸をふくらませて開校式に臨んだ4月。私たち6人を歓迎してくれるように舞う公園の桜吹雪の美しさに感動したことが昨日のようです。

それから半年間、センターの先生方には、実に様々な「学び」の機会を与えて頂きました。今までは、聴覚障害教育という狭いフィールドの中をひたすら走ってきた私です。しかし、センターの障害種を超えた研修によって自分の視野が一気に広がったような気がします。子どもの育ちを複眼で捉える大切さを学びました。



毎週水曜日に行われる研修会では、さまざまな障害について経験豊かな先生方が実践に基づいて養った内容の講義と演習を受けます。また、大学での講義では教育実践の裏付けとなる専門性の高い基礎理論について受講します。附属校の参観や講義や演習の中での真剣な意見交換がとても刺激になっています。センターの先生方も「同じ現場の教員として」私たちにどんどん意見を求めてきます。それに対して最初は戸惑っていた私たちでしたが、次第に自分たちの疑問や意見を出し合えるようになりました。研修を受ける立場から「一緒に考える」立場になったような気持ちになっていました（生意気ですが・・・。）センターの先生方の熱意と懐の深さに支えられて毎日充実した日々を送っています。そして、この研修を通じて多くの人と出会うことができた事も私にとって大きな財産になっています。特別支援教育は携わっている方々の熱意によって成り立っている、進化しているということを実感している毎日です。後半は報告書提出に向けて益々忙しくなると思いますが、貴重な日々を精一杯楽しみたいと思います。

21年度研修生

千葉県立千葉聾学校

鈴木恵利子

平成22年度現職教員研修生募集のお知らせ

■ 指導法研修重視型コース

■ 特別支援教育コーディネーター研修重視型コース

2つのコースで研修生を募集しています。

研修テーマ「特別支援学校にとっての地域支援」

特別支援教育研究センターでの研修も半分を過ぎ、静岡県から片道2時間を超える新幹線通勤にもようやく慣れてきました。私は、特別支援教育コーディネーター養成コースの研修で、「特別支援学校にとっての地域支援」について特別支援学校の実践から整理することを中心に研修を進めています。ここでの研修は、個々のテーマに沿って研修を進めていくスタイルで、研修生一人一人が目的を持って主体的に取り組むことが要求されます。しかし、附属校の先生でもあるセンターの先生方が、支えてくださるので、安心して進めることができます。

研修では、公立の特別支援学校や障害附属学校のコーディネーターの先生方に「地域支援の活動が特別支援学校の教育にどのように反映しているか」という観点でインタビューを行っています。また筑波大学附属特別支援学校での体験研修もあり、先進的な研修や実践をそばで学ぶことができます。私が研修をさせていただいている、筑波大学附属桐が丘特別支援学校では、先生方も子どもたちも、いつでも快く研修生を受け入れてくれるオープンな雰囲気、研修が楽しみになります。先生方には、こちらの質問に丁寧に教えていただき、たいへん感謝しています。すばらしいと思ったことの一つに、どの先生も日々の実践や研修とのつながりについてしっかりと整理し、伝える言葉を持っているということがあります。特別支援教育では、保護者はもちろん、子どもたちを取り巻く他機関との連携やセンター的機能など、いろいろな人とつながるために、伝える言葉を持つことは大変重要だと感じています。

センターの演習では、センターの先生方から筑波大学附属5校の実践、各障害種の理解と支援などについて具体的に学ぶことができます。

さらに、大学院の特別支援教育専攻やカウンセリングコース、リハビリテーションコースの講義に聴講生として参加することができるなど、様々な研修を受けることができます。様々な視点や専門性を理解することは連携協力をよりスムーズにさせると感じています。



研修では、センターの先生や所属校の職員の皆様をはじめ、たくさんの方の支えがあって、このように充実したものとなっていることに大変感謝しています。そして、他県の先生方や様々な専門性を持つ学生の皆さん、附属校の先生方など、研修を通して様々な方と出会ったことは、私にとってとても貴重な財産になっています。

日頃の実践を整理し伝えること、様々な専門性や機関を理解することなど、この研修で学んだことを通して私自身のこれまでの実践を振ってみると、反省ばかりです。しかし、反省を生かし、学んでいることをこれからの実践に少しでも生かしていけるよう心がけ、人とのつながりを大切に、今後の研修に取り組んでいきたいと思います。

21年研修生 静岡県立東部特別支援学校 佐々木雅則

■ チリでの特別支援教育研修に参加しました。（10月10日～10月19日）

JICAの事業である「南米地域 特別支援教育」チリ在外補完研修に特別支援教育研究センターの教員2名（野村、城戸）が講師として参加しました。南米（エクアドル、パラグアイ、ボリビア）の研修生が学校見学等で附属校にも伺いましたが、日本での研修をさらに深めるためにチリで補完研修を行いました。チリでの特別支援教育の取り組みは日本の私たちにも非常に興味深いものがありました。仔細については特別支援教育研究センターの紀要等で報告する予定です。